

ICCH (International Conference on Communication in Healthcare)参加報告

国際交流委員会

石川ひろの (帝京大学大学院公衆衛生学研究科)

ICCH (International Conference on Communication in Healthcare)が 2018 年 9 月 1 日～4 日に、ポルトガルのポルトで開催された。ICCH は、European Association of Communication in Healthcare (EACH) と Academy of Communication in Healthcare (ACH) が交互に主催し、偶数年にヨーロッパ、奇数年にアメリカで国際学会として開催されている。今回は、EACH の主催であり、講演 4 つ、シンポジウムが 16、ワークショップが 24 組まれ、約 250 の口演、300 近くのポスター発表など多くの演題が集まっていた。

EACH はもともと、臨床場面における対人コミュニケーションの研究および教育に携わる研究者が中心に集まった組織であり、Patient Education & Counseling をオフィシャル・ジャーナルとしている。参加者も社会科学系の研究者から医療者まで幅広い。

今回のセッションテーマを見ても、従来から多く扱われてきた Patient-centered care、Shared decision making などの概念、がんや緩和医療など様々な臨床場面におけるコミュニケーションの研究、コミュニケーション教育やその評価に関する研究、患者ニーズや自己管理は多くの演題が集まっていた。一方、近年、次第に扱われるテーマが広がっている傾向があり、コミュニケーションにおける IT 技術の利用、ヘルスリテラシー、健康情報のコミュニケーション、ヘルスプロモーション、リスクコミュニケーションなど、医療場面に限らないヘルスコミュニケーションにおける幅広い研究が集まり、議論が行われていた。

また、今回の新たな試みとして、各地域や専門領域ごとに参加者が集まる時間をとるなど、参加者間のネットワーク形成に力を入れていた。日本からも、保健医療社会学会の学会員を含む 10 数人の参加者があり、5 つの演題発表がされていた。

2019 年は、10 月 27-30 日にアメリカのサンディエゴで、2020 年は、9 月 8-11 日にオーストリアの University of Vienna で開催予定である。日本からもさらに多くの参加と研究成果の発信を期待したい。